

和白干潟を守る会

2017年度活動報告

和白干潟を守る会事務局

2017年度のまとめ

1988年に「和白干潟を守る会」が発足して今年4月で30年が経ち、30周年を迎えます。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、自然観察会や和白干潟まつり・クリーン作戦・鳥類、水質、砂質調査・和白干潟通信やパンフレットの発行・ホームページでの広報など、さまざまな活動を絶え間なく続けてきました。2013年には和白干潟を守る会の活動が日本ユネスコ協会連盟により「プロジェクト未来遺産」に登録されています。和白干潟を守る会の活動に対して、2017年度は地域づくりネットワーク福岡県協議会より「ふくおか地域づくり活動賞」を受賞し、「生物多様性アクション大賞2017」では入選いたしました。「第5回エクセレントNPO大賞」にノミネートされました。

「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録を求める請願書」は、皆で集めた署名を添えて3月に福岡市議会議長に提出しました。8月には請願審査があり継続審査になりましたが、今後もラムサール条約登録に向けて活動を続けていきたいと思います。11月の「第29回和白干潟まつり」では「ラムサール宣言」を採択し、環境大臣や福岡市長、県知事に届けました。ラムサール条約に登録されるためには、和白干潟が国指定鳥獣保護区の「特別保護地区」に指定されなければなりません。まだ国指定鳥獣保護区の普通地区のままです。「第29回和白干潟まつり」は寒く風が強い日でしたが、無事に開催できました。約400名の参加で子どもたちの参加も多く嬉しいことでした。

一昨年度には「四季の和白干潟の自然さがし」を雁ノ巣海岸で行いました。それをもとに昨年度はリーフレット「四季の和白干潟の自然Ⅱ」（雁ノ巣海岸）を作りました。観察会に生かしていきたいと思います。ミヤコドリは過去最高羽数の25羽が飛来しました。クロツラヘラサギは25羽、ツクシガモは309羽を確認しました。

「山・川・海の流域会議」の活動では、立花山・唐原川・和白干潟の保全グループが連携して保全活動を続けています。2017年は「身近な川の生き物」の講演会、唐原川の清掃活動、秋の観察会「立花山散策」をしました。活動への企業や学校の支援が増え、「クリーン作戦」への参加者が増加傾向です。日本ユネスコ協会連盟の仲立ちの企業も継続して参加されました。九州産業大学は特別講義を企画され、多彩に協力していただきました。2017年度もすばらしい活動ができたと思います。

今年度も和白干潟を守る活動に、皆さまのご協力をお願いします。和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となるように希望を持ってがんばりましょう！自然豊かな和白干潟を、みんなの努力で未来の人たちに渡したいと思います。引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています！

和白干潟を守る会 代表 山本廣子

活動方針1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察」、「和白干潟まつり」「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。

1. 和白干潟観察会

2017年4月に観察会グループミーティングを行い、観察会の案内状を保育園、小中学校、高校、公民館等へ送付した。観察会の依頼を受けると、事前に下見・打合せを行い、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

2017年度中（1月～12月）の和白干潟自然観察会は、年間14回で、延べ844名の参加があった。学校関係からの依頼では、保育園3回（香椎保育所、ちどり保育園、玄海風の子保育園）116名、小学校4回（和白小学校、西戸崎小学校、美和台小学校）462名、中学校1回（筑陽学園中学）69名、高校1回（柏陵高校）44名、短大1回（精華女子短大）35名、合計10回、726名あった。和白小学校では、2月末に毎年まとめの発表会があり、守る会のガイドなど参加している。その他に、ダンロップグループ、美野島まちづくり協議会など4回、延べ118名であった。また、一昨年から企画した「四季の和白干潟の自然さがし」では、1回、10名の参加があった。これらの他に、和白干潟保全のつどいとして「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」を7月に開催し、66名の参加があった。

ガイドの固定化と高齢化の問題に対しては、即戦力となる新規入会者が入り、徐々に改善している。

2. 和白干潟の自然観察ガイド講習会

和白干潟の自然の特性を良く理解して観察会の案内が出来るように、6月4日に第20期「和白干潟の自然観察ガイド講習会」を開催し、17名が参加した。

福岡植物友の会 副会長の野村 郁子 氏を講師に招き、牧の鼻の植物、特に照葉樹について学んだ。

3. 和白干潟のクリーン作戦と自然観察（毎月第4土曜日）

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口、和白4丁目の範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質や、砂質調査を実施した。

定例のクリーン作戦は、年間12回、延べ705名が参加し、1,502袋のゴミを回収した。定例のクリーン作戦の他に、

年度	活動項目	回数	延べ人数 (人)	ゴミの量 (袋)
2016	クリーン作戦	12	408	1,285
	その他	6	213	394
	合計	18	621	1,679
2017	クリーン作戦	12	705	1,592
	その他	5	331	451
	合計	17	1,036	2,043
増加割合(%)		94.4%	166.8%	121.7%

自然観察会、臨時の清掃などに延べ331名が参加し、451袋を回収した。全体では延べ1036名が参加し2043袋のゴミを回収した。この内、守る会人数は、延べ217名だった。

粗大ゴミでは、今年も自転車、タイヤ、浮き、寝具、家具類、流木など、様々な物があった。定例のクリーン作戦では、初めて参加された企業や、城東高校、産大生の参加が多く、全体の人数も昨年より多かった。アオサも昨年より多かった。昨年大量に発生したアサミドリシオグサは、今年は少なかった。総括すると、参加総人数は昨年の約166.8%、ゴミの量は約121.7%となっている。（上表参照）

- ・4月22日（土）のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」に参加。
- ・5月21日（日）は「ラブアースクリーンアップ」に参加。
- ・9月23日（土）のクリーン作戦は「国際ビーチクリーンアップ」に参加しゴミデータ調査を実施。

ゴミ調査には毎年、九州産業大学経済学部宗像ゼミの学生や、企業からの協力が有り、短時間でスムーズに分別が出来ている。ゴミでは依然プラスチック類のゴミが多い。

4. 第29回和白干潟まつり

第29回は11月19日(日)。寒く、風の強い日であったにもかかわらず約400名の参加があった。今回は昨年の反省を踏まえ、守る会の既存のテント1張りに加え、新しくテント5張りを購入、全体で6張りのテントを設置して開催した。開会式には市長からのメッセージが届き、野鳥観察はまつり開催期間中約100名がツクシガモなど44種を観察した。沿岸やアシ原、干潟では自然あそび、植物観察、干潟の生きもの観察もスムーズに実施できた。パネル展、写真展も好評だった。今回は子どもたちの参加が多く、出店者は17組でバザーや模擬店、ステージイベントにも新しい演奏者が加わり、にぎわった。脱原発展示、九州北部豪雨被害の朝倉支援の梨の販売なども行われアピールがあった。新たな九州産業大学学生のサークルの参加もあり、干潟まつりの開催を通じて和白干潟保全への関心の広がりを感じたい。干潟まつりも次年度は30回を迎えることについて、出店者からも思いを継続することへの強い連帯感が感じられた。

5. 和白干潟に関する学びの機会をつくる

昨年の「四季の和白干潟の自然さがし(海の広場周辺)」に続き、1月に「四季の和白干潟の自然さがし(雁ノ巣海岸)」最終回を実施、2月より成果をまとめてリーフレット「四季の和白干潟の自然Ⅱ(雁ノ巣海岸)」を編集し、イオン環境財団の助成を受けて7月に発行した。雁ノ巣海岸には砂嘴があり、人工島に近い自然さがしで新しく発見した特定外来植物についても記載し、注意喚起している。

3月には3週間にわたり、地域交流センター「コミセンわじろ」で第3回「和白干潟の冬と春の野鳥の写真展」を開催し、和白干潟の素晴らしさと保全の必要性をアピールした。

アオサの再利用については、会員の家庭菜園での活用情報提供に努めた。

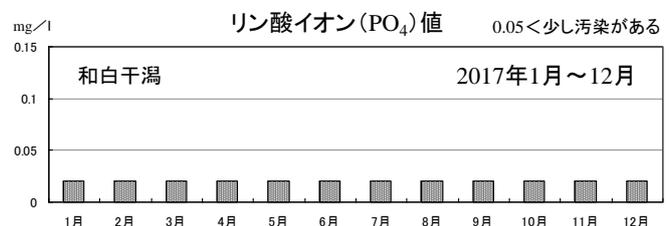
活動方針2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

6. 調査

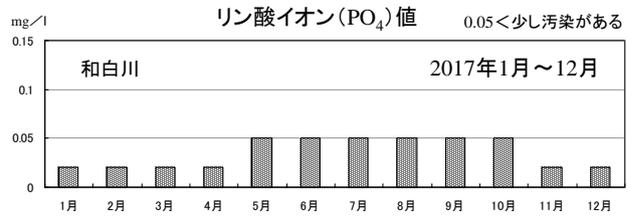
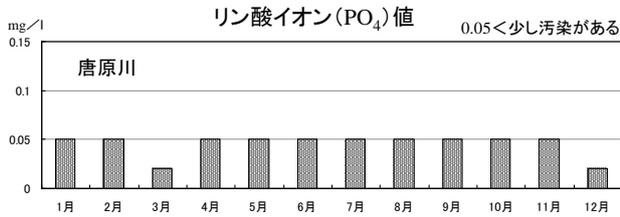
調査項目としては毎月実施する水質調査及び砂質調査、9月の国際ビーチクリーンアップ参加でのゴミ内容調査のほか、水鳥調査などを実施した。水質に関しては唐原川と和白川を調査地点に加えて観測を行っている。

(1) 水質調査(毎月1回実施)

①リン酸イオン値(PO_4)は海水中のリンの状態を示すもので0.05以下は「きれいな水」であること、0.05~0.2は「少し汚染がある」状態であることを示す。

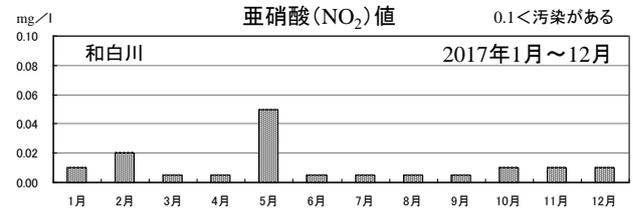
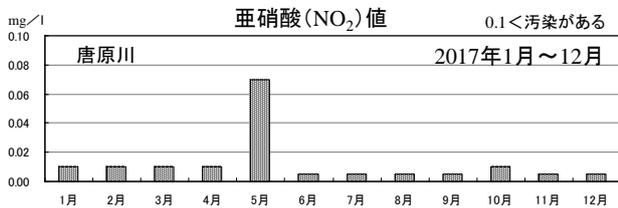
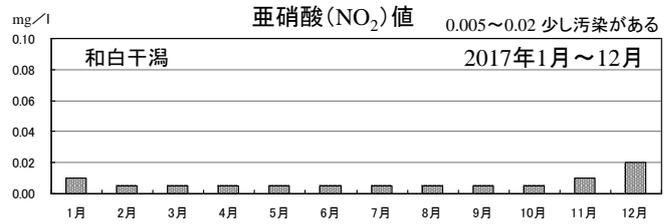


- ・和白干潟では、年間を通して0.05以下であり、きれいな状態であった。
- ・唐原川、和白川は、和白干潟に比べると汚れているが、年間を通して0.05以下であり、きれいな水の状態であった。



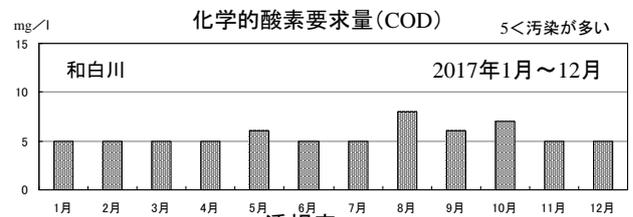
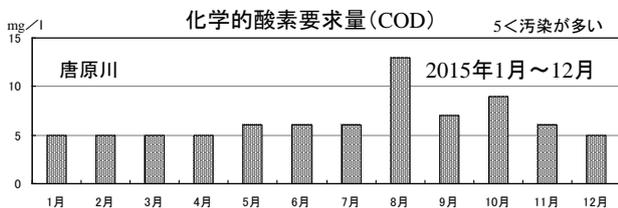
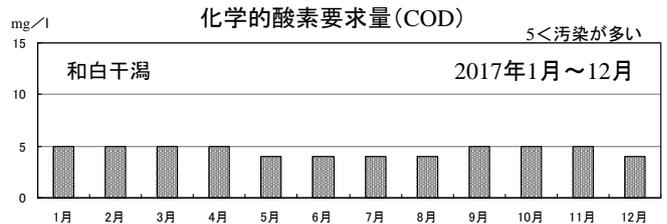
②亜硝酸値 (NO₂) は海水の窒素の状態を示すもので、0.005 以下は「きれいな水」、0.005～0.02 は「少し汚染がある」、0.02～0.05 は「汚染がある」状態を示す。

- ・和白干潟では年間を通して 0.02 以下であり水質は少し汚染がある状態であった。
- ・唐原川、和白川は和白干潟に比べると汚れており、少し汚染がある状態である。5月には唐原川、和白川とも悪化し、「汚染が多い」状態を示した。

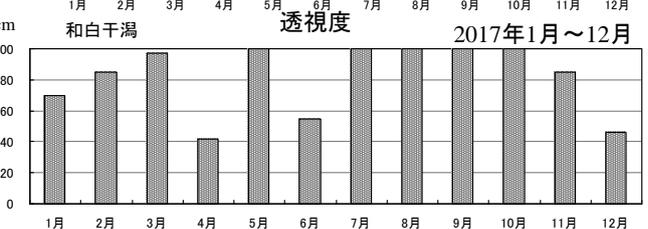


③化学的酸素要求量 (COD) は水の汚れ具合を示すもので、2 以下は「きれいな水」、2～5 は「汚染がある」状態、5～10 を「汚染が多い」としている。

- ・和白干潟では年間を通して 5 以下であり、5 を下回る月が何回かあり、汚染がある状態であるが、水質は改善傾向にある。
- ・唐原川や和白川では年に何度か 5 を越えることがあり、和白干潟に比べると汚れが多い。8月には和白川と唐原川では唐原川の方が汚れが多い。



④透視度については、以前は通常 30 cm 位であったが 2015 年度からは測定器のフルスケールまで見えることが多く透視度は改善傾向にある。

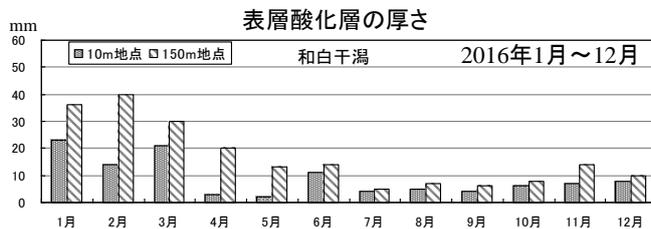


(2) ゴミ内容調査

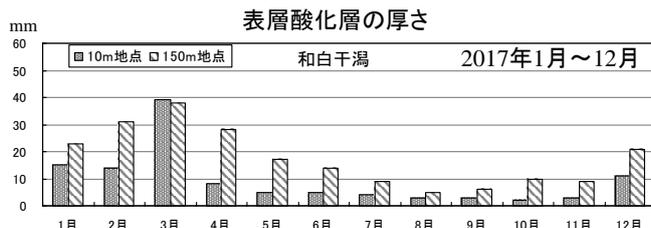
9月の国際ビーチクリーンアップにて、干潟に漂着したゴミを回収して内容調査を実施した結果、37種類のゴミが回収された。収集したゴミの中で、特に多かったのは、食品の包装・袋やペットボトルやレジ袋だった。この調査には、毎年九州産業大学の宗像ゼミに協力していただいている。

(3) 砂質調査

和白干潟・海の広場前10m地点と150m地点の表層酸化層の厚さと還元層の黒色度を測るものである。表層酸化層が厚いほど干潟が健康な状態にあることを示す。



右のグラフは、2016年度と2017年度の表層酸化層測定結果である。沖合いの方が厚い傾向にあるが2017年度は浜辺側、沖合い側の酸化層の厚さに差が無く、2016年度に比べて少しくなっている。



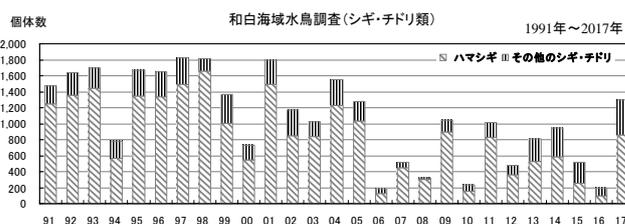
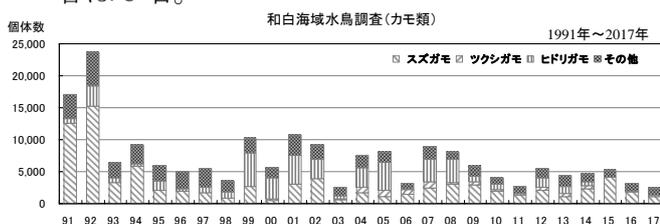
環境省やバードリサーチ、JEANなどと協力しての鳥類調査をはじめ、底生動物、水質、砂質などの調査、漂着ゴミの分類調査も継続して行う。調査データは和白干潟通信やホームページで公表していく。

(4) 鳥類調査

鳥類調査では以下の調査に協力した。

① 1月 和白海域水鳥調査 (日本野鳥の会福岡支部) 2017年1月8日に実施。

和白海域の水鳥の越冬数 (和白海域水鳥調査) の内、カモ類は前年の3,149羽よりさらに減少し、最多の1992年の23,719羽と比べて約10分の1の**2,450羽**に減少した。シギ・チドリ類は前年の191羽より大きく増えて**1,290羽**だった。ハマシギなどの小型シギ・チドリ類が増えたためだと思われる。90年代の約1,600羽にも近い羽数だった。調査参加者は6名。



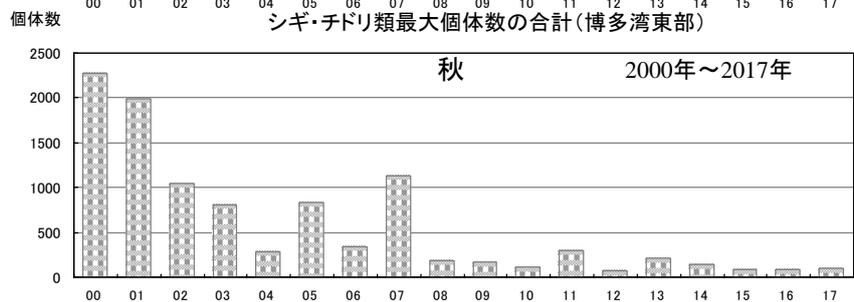
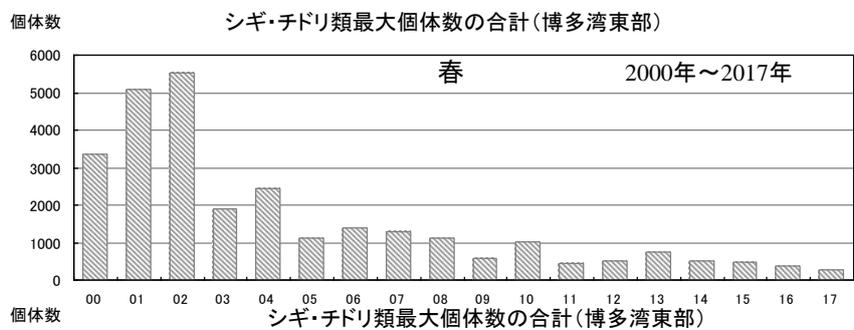
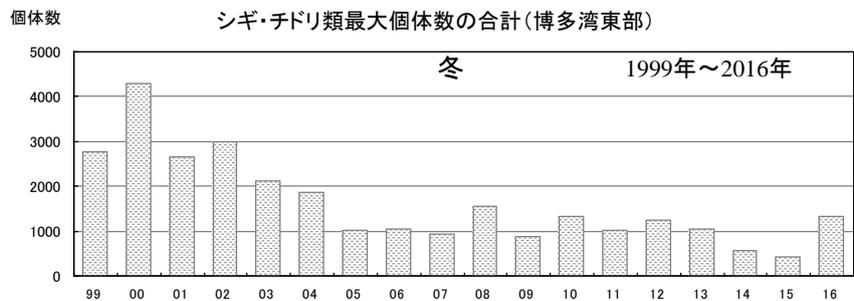
② 環境省モニタリングサイト1000シギ・チドリ調査 (環境省・NPO法人バードリサーチ)

冬期：2016年12月、2016年1～2月 今津と博多湾東部各3回実施

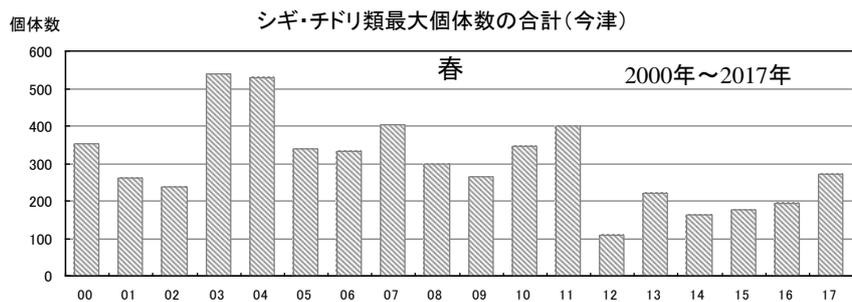
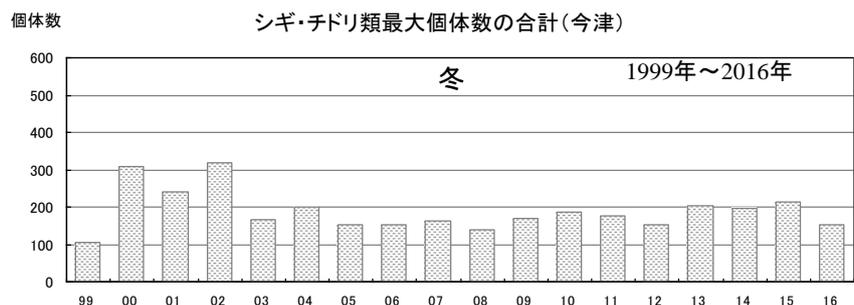
春期：2017年4月～5月 今津と博多湾東部各3回実施

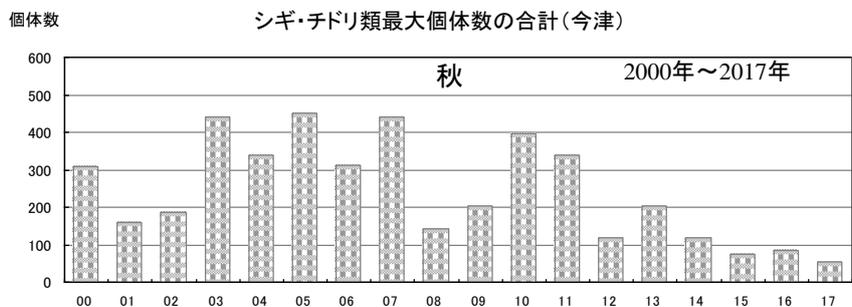
秋期：2017年8月～9月 今津と博多湾東部各3回実施

博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、2016年度冬期は2000年の4,300羽から1,324羽に減少し (昨年425羽よりは増えた)、2017年春期は2002年の5,509羽から263羽に減少 (昨年376羽)。2017年秋期は2000年の2,271羽から95羽に減少した (昨年85羽)。希少種では、冬期と春期にクロツラヘラサギは最大21羽 (昨年17羽)、ツクシガモ208羽 (昨年236羽)、ズグロカモメ0羽 (昨年0羽) を確認した。



今津のシギ・チドリ類最大数合計は、2016年度冬期は2002年の319羽から151羽に減少し（昨年215羽）、2017年春期は2003年の538羽から271羽に減少（昨年193羽）。2017年秋期は2005年の450羽から54羽へ減少（昨年84羽）。希少種では、冬期と春期にクロツラヘラサギは最大22羽（昨年20羽）、ツクシガモ26羽（昨年62羽）、ズグロカモメ24羽（昨年13羽）を確認した。





(※ 博多湾東部と今津のグラフの個体数については単位が違うことに注意！)

この20年ほどで博多湾東部の鳥類は大きく減少した。2016年冬期はアオサが少なく干潟の状態が良かったのか、シギ・チドリの個体数が増えたことは嬉しいことであったが、2017年春期以降はまた減少した。今津は減少状態である。2017年の鳥類調査参加者は、毎回10名から14名、延べ100名が参加。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。鳥類調査担当が高齢化し、車の運転者も足りない。2017年には少し調査協力者が増えたが、今後も調査協力者を求めている。

※ミヤコドリは2017年には4羽が越夏しており、10/8に8羽観察(初認4羽)、10/9に20羽、10/24に17羽、11/25に25羽(過去最大羽数)を観察した。(2016年は最大21羽) クロツラヘラサギは2017年10/9に1羽観察(初認)、11/12に7羽観察、11/15に25羽観察した(今期最大羽数)。ツクシガモは11/17に1羽(初認)、12/16(260羽)、2018年1/1(309羽)観察。

活動方針 3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。

和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

7. ラムサール条約2018年度登録を目指し、行政、議会、市民に向け活動に取り組む。

3月21日に2015年11月から2016年12月まで取り組んだ福岡市議会への署名5,134名分を添えて請願書を市議会議長あてに提出した。請願書作成、審議にむけての説明などにラムサール登録を応援する複数の議員からアドバイスをもらった。また、提出にあたっては事前に東区の議員他各会派に請願採択への理解を求める活動を行った。その結果11名の議員が紹介議員となり、8月21日、当該の第5委員会で審議された。委員会には山本代表が請願の趣旨について意見陳述をし、守る会会員も多数傍聴した。紹介議員から請願の趣旨が詳しく説明されたが、ラムサール条約登録地の前提となる国設鳥獣特別保護区の指定に否定的だった福岡市の姿勢が依然変わっていないため、たくさんの署名をもってしてもラムサール条約登録の請願は、採択されないままに継続審議とされた。審議の過程で、野鳥の被害があるとの説明があったが、何ら根拠の裏付けもなく、市は調査も行っていなかったことが明らかになった。また、付近住民がラムサール登録地となったら、交通渋滞を招く不安も抱いており、市民の理解が進んでいないとして、採択に反対する会派もあり、残念

な結果に終わった。市は「和白干潟は貴重な干潟であることは認識しているが、市民の意識を高め、合意形成が出来れば次世代につなげたい」との見解であり、先送りするばかりで何ら積極的な姿勢は見られなかった。引き続き次回の登録目指して活動を続ける必要がある。

8. 福岡市の環境政策、公共事業に対し、情報収集、学習、意見交換、提言に努める。

(1) 福岡市の政策についての取り組み

①博多湾内油流出事故への監視活動

4月に博多湾内で貨物船火災事故による油流出事故があったため、会員が和白干潟への影響について情報収集し、沿岸部の監視活動を行ったが、影響が無く終結した。

②福岡市議会の傍聴

6月市議会で、民進党議員から和白干潟のラムサール条約についての一般質問があり会員が傍聴したが、積極的に推進する姿勢は感じられなかった。

(2) 福岡市との連携

①「和白干潟保全のつどい」の定期開催

福岡市港湾空港局環境対策課、自然保護団体などと連携し「和白干潟保全のつどい」を構成し、年間を通して月1回定例会議、イベントの開催、情報交換など行っている。4月には、雁ノ巣海岸の学習会を行い、オカミミガイの生息状況などを観察した。また、5月の「ラブアースクリーンアップ」のゴミ清掃前に唐原川のアシを刈り取るよう付近の町内会が港湾空港局理財課に依頼し、唐原川左岸のアシと共に、貴重植物の「シバナ」が刈り取られたことが判明した。この事態に港湾空港局環境対策課が貴重植物の自生地にロープを張り、立ち入りしないよう掲示をした。今後経過観察を行っていくことになり、このようなことがないよう局内で事前連絡をすることなど確認した。

7月には「第8回夏休み！和白干潟のいきものやハマボウを見る会」を開催、66名が参加した。

9月、10月には「アオサのお掃除大作戦」を2回実施。全体で147名。アオサ回収516袋。12月には「バードウォッチング in 和白干潟2017」を実施、39名が参加。

②エコパークゾーン水域利用連絡会議

3月31日に平成28年度の会議が開催され、委員の山本代表の他会員2名が傍聴した。守る会はウェイクボードの海域侵入問題と、アサリの乱獲防止対策としての条例化の提案を行ったが、まとまらなかった。

③福岡市主催の「ラブアースクリーンアップ」は5月21日開催。和白干潟では10名が参加し、守る会は6名参加、56袋のゴミを回収した。

9. 「山・川・海の流域会議」の他団体と連携して、立花山・唐原川流域・和白干潟の保全活動や観察会などに取り組む。

1月新春講演会で九州大学大学院林助教による「身近な川の生きもの～福津市上西郷川での多自然川づくり」を知り、5月に11名で福津市上西郷川に見学に行った。行政と市民の連携による自然再生の成果を実感できた。6月には第5回「唐原川お掃除し隊」を実施。香住丘町内会、九産大生、建設会社社員ら約50名が参加し、上流から河口まで3班に分かれ清掃した。8月には、小学生対象の「唐原川ふれあい環境教室」を九産大野生動植物研究会と共催し、川の生物観察をサポートした。8月、下原公民館で開催の「立花山写真展」に共催した。10月の秋の観察会は「立花山散策」を行い、17名参加、守る会は9名参加し、立花山グリーンガイドの会の方からレクチャーを受け、植生や特徴ある草木、キノコなどについて楽しく学んだ。11月の和白干潟まつ

りにはパネル展示や環境小物販売を行った。定例会議を2ヶ月に1回開催している。

10. 和白干潟を守る会の活動を担うスタッフの確保、充実に努める。また、ボランティアの募集にも力を入れ、気軽にボランティア参加できるよう情報提供などに努め、定着化を図る。

新規加入者もスタッフとして活動への積極的な参加が見られた。ボランティアに関しては大学生、会社単位の社会人グループが定着化しつつある。さらに広報に力を入れ、機関紙「和白干潟通信」でのお誘い欄に具体的項目を入れた。今年度は初めてスタッフ対象に「リサイクル講習会」を2回開催した。リサイクルバッグ作りや浄化実験用ペットボトルの容器作りなどのべ12名が参加し、好評だった。活動の充実、特技の発揮と共有の機会になった。

11. 2018年に発足30周年を迎える和白干潟を守る会の記念事業に向けて取り組む。和白干潟を守る会20年誌「未来につなごう和白干潟」の改訂版30年誌の編集を開始する。

昨年、30周年事業のスタートとしてリーフレット「四季の和白干潟の自然Ⅰ（海の広場周辺）」を発行し、今年度は「四季の和白干潟の自然Ⅱ（雁ノ巣海岸）」を発行した。

9月に、10年前の20年誌に続き、20年以後の自然環境変化の公表も含め、活動の様子を記録した和白干潟を守る会30年誌「未来につなごう和白干潟Ⅱ～和白干潟を守る会30年のあゆみ」作成会議を設置し、精力的に編集にあたっており、2018年度発行する。さらに、10月から和白干潟保全の思いを後世に伝え、現時点の守る会の活動を残す「30周年記念動画」制作会議を立ち上げ、クリーン作戦や和白干潟まつりなどの活動、自然などを撮影し、2018年度完成を目指している。

12. 広報の強化について

(1) 和白干潟通信・ホームページ・リーフレット類

- ① 和白干潟通信は1月121号、4月122号を各5,000部ずつ、7月123号、10月124号を各5,300部ずつ発行した。干潟通信は（公財）イオン環境財団の助成金を受けて、ロータリー印刷（株）で作成した。昨年から新年号（1, 8面のみカラー印刷）以外の通信は号ごとに紙色を変える工夫をし、アピール度をアップし好評。配布先は、会員、マスコミ、行政関係、和白干潟付近の家庭、クリーン作戦、自然観察会参加者など。発送作業は日頃参加できない会員も加わり、みんなで行っている。配布ボランティアは25名である。
- ② ホームページは、4名が分担し編集している。最新活動報告をブログに、年間を通して対外活動、行事予定、和白干潟の自然情報など、写真も豊富に更新をタイムリーに行い発信している。ホームページを見てクリーン作戦に参加する団体も増えている。
- ③ 「クリーン作戦と自然観察お知らせポスター」は、東区役所、公民館、郵便局、周辺大学（福工大、九産大、福岡女子大）、銀行、駅、老人福祉センター（東香園）などにも掲示依頼している。
- ④ リーフレット類は、昨年の「四季の和白干潟の自然Ⅰ（海の広場周辺）」に続き第2弾「四季の和白干潟の自然Ⅱ（雁ノ巣海岸）」1万部（86枚の写真で構成、A3で4つ折）を（公財）イオン環境財団の助成を受けて発行した。これらは観察会の教材として利用してもらっている他、郵便局やホテルAZ和白店、コミセン和白などで配布している。

(2) その他

- ① イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」への参加
イオン香椎浜店で、毎月11日にボランティア団体支援のイエローレシート投函を呼びかけるキャンペーンに参加し、10年目となった。レシートの買い上げ金額の1%相当額が団

体に寄付され、4月には1年間のギフトカードを寄贈される仕組み。毎月3～4人、年間延べ51名が参加し、守る会の通信やイベントのチラシを手渡しして守る会の活動への賛同を呼びかけ、多くのレシートを取得し、活動資金獲得とともに活動のアピールにつながっている。

②写真展の開催

昨年に続き、「第3回和白干潟の写真展」をコミセンわじろロビーにて3月1日から21日まで3週間開催した。冬と春の鳥や植物の写真展示は和白干潟の自然の豊かさを紹介し好評だった。

1.3. 講演活動

(1) 11月6日「香住丘小学校5年生対象の講演」山本代表

(2) 11月14日「九州産業大学経済学部特別講義（宗像ゼミ主催）」山本代表

1.4. 情報の発信：新聞や雑誌、他団体の会報等に鳥情報、和白干潟の紹介を発信

- ・日本自然保護協会、西日本新聞東局に年間スケジュール表を送付、クリーン作戦や和白干潟まつりなどのお知らせ掲載依頼。
- ・自然関係4誌に和白干潟のクリーン作戦とガイド講習会、和白干潟まつりの案内記載を依頼。
- ・新聞各社に「四季の和白干潟の自然さがし」の案内掲載を依頼。
- ・国土交通省河川環境課、日本自然保護協会に「多自然川づくり」に関するアンケートに記入送付。
- ・あすみんHP、メールマガジンにクリーン作戦、和白干潟まつり、ガイド講習会、自然さがしの案内掲載を依頼。
- ・ガイド講習会、四季の和白干潟の自然さがし、和白干潟まつりのチラシとポスターを作成、コミセンわじろに掲示依頼した。
- ・JAWAN通信に山本代表が和白干潟報告の原稿を執筆した。
- ・第29回和白干潟まつりについて新聞4社、TV局6社、JAWANメールに案内。ミニコミ誌5社に情報提供、2誌が掲載。
- ・ミヤコドリ、クロツラヘラサギ、ツクシガモの飛来について新聞各社に情報提供し、掲載された。
- ・チームエナセーブ未来プロジェクト観察会とクリーン作戦の取材を新聞4社とTV局4社に依頼。
- ・福岡市環境局に年間活動予定を送り、HPの干潟を守る会の情報を点検修正し、送付した。
- ・環境省シギ・チドリ調査サイト紹介HPのアンケートに回答送付。
- ・マリンワールド「情報ひろば うみのたね」でリーフレット、通信も配置させていただくことになった。
- ・くすだひろこきりえ展「和白干潟の自然」（レストラン花ももで5/1~5/31）を開催し、パンフレットや通信を配布。
- ・和白干潟の自然観察ガイド講習会のお知らせを新聞3社に送る。
- ・「世界湿地調査」の和白干潟について書き込み送付。
- ・日本河川協会のHP活動団体紹介調査票に記入送付。

1.5. 取材協力：新聞社、テレビ局、雑誌などからの取材に協力

- ・国土交通省「港の賑わいづくり」紹介のため「NPO九州キラキラみなとネットワーク」が

取材し、協力した。

・NHKから取材協力依頼があり、委託業者と打ち合わせたが、放映は無かった。

1 6. 対外団体との交流活動、協力・参加活動

(1) 和白海岸定例探鳥会 毎月1回「和白海岸探鳥会」で日本野鳥の会福岡支部に協力している。

(2) JAWAN、JEAN

①4月東京で開催された2017年度JAWAN総会に山本代表出席。4月「干潟・湿地を守る日2017」参加。クリーン作戦と併せて実施し、2017年和白干潟宣言を出した。

11月JAWAN「ラムサール条約登録を求めて環境省に要望書提出と交渉活動」に山本代表が参加した。

②JEAN「国際ビーチクリーンアップ(春・秋)」に参加した。4月はクリーン作戦と併せて実施。9月はクリーン作戦と併せ、漂着ゴミ調査を九産大宗像ゼミとともにいった。

(3) 日本自然保護協会

自然しらべ「うなぎ目線で川・海しらべ」に参加、8月6名参加し、和白干潟周辺の3河川で実施、結果報告。

(4) グリーンコープ生協ふくおか福岡東支部

第29回和白干潟まつりを共催した。

(5) 福岡市ボランティア交流センター「あすみん」HPなどへの情報提供を継続し、ボランティア登録した学生などがクリーン作戦に参加している。

(6) 蒲生を守る会とは 機関紙交流を続けている。

(7) 2月美野島まちづくり協議会が和白干潟見学。

(8) 5月香椎なんでも歴史クラブが和白干潟見学。

(9) 9月古賀市環境市民会議が和白干潟見学。

1 7. 「和白干潟を守る会」の運営に関して

(1) 定例会議・総会

原則第4土曜日に守る会の事務所で「定例会議」を11回開催。2月は「総会」を開催し、同日に臨時定例会議を開催した。総会で1年間の活動のまとめ、会計報告、新年度活動方針、予算等を決め、定例会議では会の活動に関する報告、予定を共有し、重要な事項は全員で意見交換して決定した。定例会議出席者は各回15~19名、平均17名が出席し、昨年度に比べ出席者が増えている。また必要に応じて事務局会議を開催した。

(2) 事務局体制と役割分担

会の活動にあたって、定例会議に出席している事務局メンバーはできるだけ様々な活動を分担することとしている。15年度より会計の日常的な管理と帳簿管理を2人体制で分担している。観察会、鳥類調査担当、水質・砂質調査担当、干潟まつり実行委員も補充した。新たに30年誌作成担当、動画制作担当を決め、活動している。また、望年会、大掃除なども担当責任者を決め、望年会には17名が参加し、大掃除には15名が参加した。

(3) 助成

イオン環境財団から助成金を受けた。

(4) 寄付

①イオン九州(株)から「幸せの黄色いレシートキャンペーン」によりギフトカードを寄付いただいた。

- ② あいおいニッセイ同和損保 KK 福岡支店より寄付いただいた。
- ③ 和白東レインボークラブ連合会より寄付いただいた。
- ④ MS&AD ホールディングスより寄付いただいた。
- ⑤ 住友ゴム工業（株）より寄付いただいた。
- ⑥ 会員や一般市民、観察会、干潟まつり、望年会オークション等でカンパをいただいた。

(5) 応募

- ・ 6月21日 「平成29年度あしたのまち・くらしづくり活動賞」応募（選外）
- ・ 8月26日 「平成29年度ふくおか地域づくり活動賞」応募（ふくおか地域活動賞）
- ・ 9月4日 「生物多様性アクション2017」応募（入賞）
- ・ 9月7日 「第5回エクセレントNPO大賞」応募（市民賞にノミネートされた）
- ・ 9月10日 「第20回日本水大賞」応募
- ・ 12月7日 「平成29年度日本自然保護大賞」応募（保護実践部門受賞）

(6) 2017年度末の新規会員

個人：3名、団体：0

(7) 2017年度末会員数（新規会員含む）

個人会員：243名

団体会員：14団体

18. パンフレット類の在庫（2018年1月現在）

- ・ 和白干潟を守る会リーフレット 3,874
- ・ 和白干潟の自然案内（和文） 5,635
- ・ 和白干潟の自然案内（英文） 528
- ・ 環境教育シリーズⅠ（環境教育プログラム） 314
- ・ 環境教育シリーズⅡ（水鳥, 底生生物、植物図鑑）和文 5,669
- ・ 環境教育シリーズⅡ（英文） 461
- ・ 環境教育シリーズⅡ（韓文） 78
- ・ 和白干潟観察マップ・年間スケジュール表 毎年印刷
- ・ 和白干潟を守る会封筒 5,000
- ・ ラムサール条約と和白干潟 246
- ・ 未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会20年の歩み 8
- ・ 四季の和白干潟の自然Ⅰ 7,822
- ・ 四季の和白干潟の自然Ⅱ 9,537

19. その他

- ・ 海ノ中道海浜公園委託の鳥類調査に協力（毎月1回）4名